

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 徳島県教育委員会
2. 研究主題 : 調査研究Ⅱ 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 導入が容易で効果的な手法による主体的・協働的な学びを通じた小規模校での高い教育力の確保
4. 研究課題 :
- (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策
 - ア 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
 - ・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する教育方法のモデル化（ホワイトボード・ミーティング等）
 - ・児童生徒の自己肯定感や学習意欲等を向上させることを目的としたファシリテーションを生かした学校づくり
 - (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策
 - イ 社会教育と密接に連携した学校教育活動
 - ・地域の教育力の効率的な生かし方
 - ・地域の維持につながる地域活性化への学校の貢献
 - ウ 児童生徒数の増加や児童生徒集団の多様性確保
 - ・学区外から受け入れた不登校児童の心に届く教育活動の実践

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

小規模校の活性化を目指し、信頼ベースの学級・学校づくりを土台とした自己肯定感の向上、ホワイトボードを活用したコミュニケーション能力の育成や学力向上への諸方策の実践を行う。また、幼・小・中の連携や、地域の教育力を取り込んだ特色ある教育活動の展開を図る。

さらに、調査研究校の実践をもとに、小規模校での教育活動の高度な発展とモデル化を行い、その取組を県下に広げる。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。

(2) 調査研究の実施状況（平成29年度）

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による本年度の目標・計画の共有 ・児童生徒の実態調査（学力・学習状況調査の児童生徒質問紙と学校質問紙を活用） ・保護者への研究の経過と本年度計画の説明 ・C R T標準学力検査の実施（全学年）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のビジョンの共有と本年度の研究計画の作成 ・学校教育推進会議に諮る実施計画案づくり ・第1回小中連携検討委員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園との交流（幼・小連携） ・締太鼓の練習（地域の方をゲストティーチャーに招聘） ○授業研修会（小中一貫教育徳島モデル指定校との合同研修会）6月27日（火） 助言者 ちょんせいこ氏，大島千文氏（佐那河内小中学校長）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同ミニコンサート（小・中連携） ・校内研修会

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会参加（授業UDカレッジ 8月19日（土）、20日（日）） ・徳島市・名東郡中学校連合音楽会 8月21日（月） ○幼・小・中合同研修会 8月29日（火） 「教室に遊びの文化を育む会社活動の進め方、 ホワイトボード・ミーティングを活用した先生の文章の書き方講座」 助言者 ちょんせいこ氏
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会（締太鼓の披露） ・第2回小中連携検討委員会の開催 ○授業研修会 9月26日（火） 助言者 岩瀬直樹准教授
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中合同運動会（幼・小・中連携）・校内研修会 ・児童生徒の実態調査（学力・学習状況調査の児童生徒質問紙と学校質問紙を活用）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンまつり（学校・地域との連携） ・オープンスクール（保護者、地域への授業公開） ・絵本の読み聞かせ（幼・小連携） ・人権コンサート・100人合唱（幼・小・中連携） ・獅子舞について（地域の方をゲストティーチャーの招聘） ○授業研修会、学校教育推進会議 11月20日（火） 助言者 ちょんせいこ氏
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会 ・研修会参加（小中一貫教育「徳島モデル」実践地区交流研修会 12月5日（火）） ・あわ(OUR)教育発表会にて実践発表 12月26日（火）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中合同避難訓練（幼・小・中連携） ・学習発表会（地域の方より指導を受けた獅子舞、締太鼓の披露） ○授業研修会、幼・小・中合同研修会「幼・小・中が連携することの意義について」 校内協議会（今年度事業の振り返りと来年度計画案の協議） 1月15日（月） 助言者 ちょんせいこ氏、岩瀬直樹准教授
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・新1年生体験入学（幼・小連携） ・CRT標準学力検査の実施（全学年） ・第3回小中連携検討委員会（本年度の振り返りと来年度の方向性） ・研究実践校の取組作成 ・学校評価の実施（児童・生徒・保護者対象）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・各試案の検証と来年度実践に向けての改善案作成 ・評価指標と評価方法の検証 ・協力校（小中一貫教育「徳島モデル」指定校）の選定 ・成果報告冊子の配付 ・今年度の事業報告書の作成

○外部アドバイザーを招聘した授業研修会

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>(1) 小規模校のメリットを最大化させる方策</p> <p>ア 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究</p> <p>【少人数による話し合い活動のモデル化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に問題解決する力やコミュニケーション能力の向上を目指し、ホワイトボード・ミーティングを活用した授業実践を継続した。児童は、ホワイトボード・ミーティングを活用した話し合いの手法に慣れ、自分の考えを深めたり、自分の考えを表現したりできるなど、コミュニケーション力の育成につながっている。 ・児童相互の学び合いの時間を確保することや、読書活動を継続することで、活用問題の正答率が伸びた。 ・徳島県教育委員会が主催する「あわ(OUR)教育発表会」において、上記の実践に加え、幼・小の交流活動を通じた幼・小のスムーズな接続、小・中教師の授業交流による魅力ある授業づくり等の実践について発表し、県下に拡げることができた。 ・外部講師を招いて授業研修会を行ったり、県内外の研修に参加し得た知識を全体で共有したりすることで、教師の授業力が向上している。 						
<p>【コミュニケーションを密にした自尊感情の高揚】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の対話型読み聞かせ、ハートカードプロジェクト（友達の素敵などところを見つけてカードに書き、プレゼントする）など、小規模校のメリットを生かし、一人一人の児童が全体の場で活躍できたり、大切にされていることを実感できる活動を通し、教師と児童、児童相互の信頼関係を築くことができた。自分の得意なことを生かし、誰かの役に立つこと（会社活動）を通して、児童の自尊感情の高揚が図られた。 <p>※学校評価による児童質問紙「自分を好きだ」と答えた児童の割合</p> <table> <tr> <td>H27年2月</td> <td>84.2%</td> </tr> <tr> <td>H28年2月</td> <td>84.9%</td> </tr> <tr> <td>H29年2月</td> <td>86.0%</td> </tr> </table> <p>そう思うの回答が前年度比で1.1%向上</p>	H27年2月	84.2%	H28年2月	84.9%	H29年2月	86.0%
H27年2月	84.2%					
H28年2月	84.9%					
H29年2月	86.0%					
<p>(2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策</p> <p>イ 社会教育と密接に連携した学校教育活動</p> <p>【地域資源を生かした豊かな学びの実現と地域の活性化のための取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の豊かな自然を生かした体験活動や、地域の歴史や文化を地域の方から学ぶ活動を通して、児童が地域の魅力を発見し、地域への愛着をもつことができた。また、地域に残る伝統芸能を地域の方とともに残していこうとする意欲をもち、地域の活性化にもつながっている。 ・学校行事に参加する保護者や地域の方が増え、三世代の交流が進み、学校を核として地域の活性化が行われている。 						
<p>ウ 児童生徒数の増加や児童生徒集団の多様性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入田小学校児童数 H27年度 37名 → H29年度 50名 ・他校からの児童の受け入れを積極的に行い、「一人一人を大切にし、丁寧に指導してくれて学力も付けてくれる。」と評判になっている。不登校気味であった児童が、個に応じた丁寧な指導により登校日数が増え、級友とのコミュニケーションも図ることができるようになった。 ・これまで少人数であること等を理由に参加を見送ってきた郡市音楽会に中学校が久しぶりに参加した。中学生は大きな舞台での発表を経験することで自信をもったり、他校の発表を聞くことでもっと高めたいと刺激を受けたりができた。また、小学生は中学生の姿を見て、憧れの思いを持つとともに、中学校での目標を持つことができた。 						
<p>【学校閉校に対する地域の不安の軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育推進会議等において、教育委員会・学校・保護者・地域住民との対話を図ることにより、学校閉校に対する地域の不安の解消を図るとともに、協働して学校・地域の活性化を図っていこうとする意識の醸成につながった。 						

(2) 成果物等

<p>【冊子】</p> <p>文部科学省 少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業 平成29年度研究実践校の取組 徳島市入田小学校</p>
--

(3) 今後の取組予定

- ・園児・児童・生徒間や小中教職員の交流，小・中での乗り入れ授業等を実施し，幼・小・中の連携や接続のさらなる充実を図る。
- ・ホワイトボード・ミーティングの手法を教科学習に生かし，主体的・対話的で深い学びの充実を図る。
- ・小中一貫教育（徳島モデル）指定校との連携を図り，学校間連携及び地域連携のさらなる充実を図る。
- ・学校を核とした地域の活性化の継続と充実を図る。

